

## アマルティア・クマール・セン氏名誉博士号贈呈式総長式辞

ご来賓の皆さま、早稲田大学教職員・学生の皆さま、

本日、ここに、アマルティア・クマール・セン教授をお迎えし、名誉博士学位贈呈式を盛大に開催できますことは、我々の大きな喜びであり、また、誇りとするところです。

セン教授は、規範的経済学および正義論を中心とする倫理学・政治哲学など、多岐にわたる学術分野の発展に重要な貢献を果たされてきました。1998年には、厚生経済学の情動的基礎の再構築と社会的選択理論の創造的な革新により規範的経済学の発展へ大きな貢献をされたことにより、アジア人初のノーベル経済学賞を受賞されるなど、今日に至るまで多様な学問に大きな影響を与えてきた、世界を代表する経済学者でいらっしゃいます。

セン教授は1933年にインド・ベンガル州で生まれ、1953年にカルカッタ大学プレデンシーカレッジ卒業した後、ケンブリッジ大学トリニティー・カレッジに留学し、1955年に学士号、1959年に博士号を取得されています。その間、23歳の若さでジャダプール大学の経済学部長に就任されています。その後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、オックスフォード大学ナッフィールド・カレッジの経済学教授、さらにオックスフォード大学オールソウルズ・カレッジのドルモンド政治経済学教授等を歴任され、現在はハーバード大学ラモント特任教授及び経済学・哲学併任教授を務めていらっしゃいます。

また、エコノメトリック・ソサイエティ会長、国際経済学会会長、インド経済学会会長、アメリカ経済学会会長を務めるなど国際的な学会で要職を務められるとともに、ブリティッシュアカデミーやエコノメトリック・ソサイエティなど世界的に有名なアカデミーのフェローにも選出されています。

さらに、ノーベル経済学賞をはじめ、インド最高の民間人褒賞である、バーラート・ラトナ賞など数々の賞を受賞され、世界中から高い評価を受け続けられています。

セン教授は、本学名誉博士である、故ケネス・アロー氏を嚆矢とする社会的選択理論の射程を遥かに越えて研究領域を拡張されましたが、その過程で効率性至上主義と決別し、所得や富の分配の公平性、社会的選択における自由主義的権利、貧困と飢餓の理論と計測のための分析的枠組みを展開して、血の通った厚生経済学の軌道を敷かれました。また、社会的選択理論が人々の福祉の改善や、貧困・飢饉・飢餓など焦眉の経済問題の解決に貢献できるよう、純粋理論と公共政策との連結環を発見する作業にも、意欲的に取組まれ、その一部は国連開発計画の人間開発指数に繋がり、すべての人類を射程に収めた人間の安全保障の確保と充実といった世界銀行などでの経済開発支援に結実しました。

早稲田大学は、自由で独創的な学問を究めるとともに、その応用の道を講ずることによって、世界の学問と社会の発展に寄与することを、そしてまた、学問の成果を私利私欲や一党一派の利益のために用いるのでは

なく、世のため人のために役立てようという利他的・犠牲的な精神をもって広く世界で活躍するという人格の涵養を建学の理念としています。セン教授のこれまでのご活躍は本学の建学の理念を体現されたものであり、本日、名誉博士号を贈呈できますことは本学にとって大変意義深く、大いに誇りとするところです。

また、本学政治経済学術院は、この 10 年以上にわたって、国際政治経済学科の設置、21COE、G-COE、実証政治経済学拠点形成などのプロジェクトを推進して参りましたが、その根底にあるのは PPE(Philosophy, Politics, and Economics)の理念であり、この理念を体現した社会科学者としてセン教授を想定していました。セン教授の研究教育上の業績は、日本で最初に「政治経済学」の教育・研究を開始した本学の教育理念と密接に関係しているだけでなく、本学の多くの教員・学生が、セン教授のご業績から直接・間接に大きな影響を受けて研究を進めてきました。

現在、本学では、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(トップ型)に採択された「Waseda Ocean 構想」のもと、世界の平和と人類の発展に資するための研究と次代を担うグローバル人材の育成を進めています。その研究拠点の一つ「実証政治経済学拠点」では、グローバルな環境と視野での政治経済学・ビジネス教育を推進し、世界で最先端の実証政治経済学研究拠点の構築を目指しています。また、もう一つの研究拠点「グローバルアジア研究拠点」では、和解と持続可能な開発という二つのテーマを学際的に研究し、その成果を、アジアから世界に向けて発信することを目指しています。

このあとセン教授より記念講演をいただきますが、これからの世界を背負う若い研究者や学生の皆さんに大きな希望と示唆を与えてくださるものと強く確信いたしております。

最後になりますが、アマルティア・クマール・セン教授のますますのご健勝とご活躍を祈念して、私の式辞を結ばせていただきます。

ご静聴、有り難うございました。

以 上